

希学園 第410回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第410回公開テスト 小4国語 解説動画(2026年7月12日実施)	https://vimeo.com/1208981736/9484e669b9

1

幸福

写真

少年

雲間

暑さ

黄金

2

水やり

工

イ

ア

ア

5 I
(記述題)

II
菊池さんはふ

6
A ウ B ア C エ D イ
(6 完答)
7 ウ

8 T
ウ U イ V ア

3

1 性間 (1 完答)

2 ア プ (2 ア 完答)

イ 脳 (2 イ 完答)
達

ウ 大 い (2 ウ 完答)

3 み 動 (3 完答)

4 工

5 A C F (5 順不同・完答)

6 イ

7 目 強 (7 完答)

8 P
非 Q 然 R 不 S 性

2

5 I
自分が嫌われていることを口に出して言うこと。

(同意可)

配 点		
1	2	3
8	8	8
各 2 点 × 13 = 26 点		
2	5	I
6 点		
その他		
各 4 点 × 17 = 68 点		
〈計〉 100 点		

1

1 「幸」も「福」もそれぞれ字形に注意したい漢字である。

2 特に難しいところのある字ではない。「真」を「写」す、という熟語の組み立てである。

3 「少」であって「小」ではない。「少」の字に「若い」の意味もあるが、「生きた年月が少ない」と覚えるとよいだろう。

4 「雲」の「間」ということ。文脈から字の見当がつくとよい。「あめかんむり」の三画目と「雨」の三画目との違いに注意。

5 「暑さ」、「熱さ」、「厚さ」の使い分けに注意。この場合は気温の高さを指すので「暑さ」がふさわしい。

6 「黄金」にはほかに「こがね」という読みかたもある。「こがねむし」は「黄金虫」と書けるわけである。

2

『天地ダイアリー』 ささきあり ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 「なぜ？」と疑問を抱きながら読み進められたらどうか。直後で「水やり当番」について説明していることと、「その日だけ少し早く登校すればいいから」という「ふとまゆセンパイ」の言葉とを関連づけることができれば容易である。

2 傍線部のような振る舞いを見せた登場人物の心情について、注意深く本文を追っていき。続く箇所「菊池さん」が「遅くなって、ごめん」とあやまっていた。「気持ちわるっ」と思われたであろうというのは「ぼく」の思い込みである。

3 X：情景をイメージして、どんな心情が働くか想像しよう。一度「おはようございます」とあいさつを交わしたあいさつ当番の前を何度も通るのは、なんとなく恰好がつかない。Y：「おはようございます！」というあいさつに似つかわしい態度で、かつ、「うつむきがちに、だまって」通りすぎる「ぼく」と対照的な様子を示す言葉がはいる。

4 記述問題として問われても答えられるような考え方ができるのが望ましい。「出来事↓心情↓表出」の因果関係を確認しよう。「菊池さん」の心情を推し量る手がかりは明らかに「ぎゅっと口を結ん」だ表情にある。直前、「女子三人」が「わざと大声で」「菊池さん」の悪口を言っていることを受けての反応だろう。当然、「菊池さん」は彼女らの言葉に傷つき、悲しみを抱いただろうが、それを「ぎゅっと口を結」ぶことで、こらえているのである。

5 I：「自傷行為」とは注釈にある通り、「自分で自分を傷つける行為」のことである。「この場合」、「具体的に」、「どんなこと」とかと問われているのだから、「自分を傷つけるようなこと（を言うこと）」では説明として不十分。「この場合」、直接的には「わたし、嫌われてんの」という「菊池さん」の発言を受けて「ぼく」は傍線部のように述べている。どういう点が「自傷行為」なのかといえ、心の中で思うのと、口に出すのはちがうとあり、「ぼく」もその点にこだわっている通り、「嫌われて」いるという思いは「口に出す」ことで「本当になってしまふ」という意味で、「自分を傷つける行為」すなわち「自傷行為」なのである。II：「ふーっと肩で息を」し、そのまま「正門の花壇に向かった」という意味で、「菊池さん」の様子も元にもどっている。

6 「寛大、遅い！」に対する阪田（寛大）の発言が続くはず。「え？ まだチャイム鳴ってないだろ？」という返答はいかにも「首をかしげた」という仕草にふさわしい。続いて「菊池さん」が「今日は、水やり当番だよ」と阪田に思い出させ、「あー悪い、忘れてた」と「阪田がおでこに手をやる。それに「菊池さん」があきれて「ため息」をつき、「変わんないなあ」とこぼすので、「中学生になったぐらいで、変わらないって」と阪田が応じるのである。

7 確かに、「どーせ『気持ちわるっ』とか思ったんだろ」とか、「菊池さんみたいな強気なタイプ」、「菊池さんは難なく主導権をにぎって『上層』に位置する人に見えた」とかいったように、特に「菊池さん」に対して一方的な偏見を抱いている描写は多いが、「かんたんには自分の非を認めないと思ってた」とか「本当は苦労してきたのかな」とかいったように、いずれも続く場面での自分の考えに疑いを抱くようになっていくため、ウが誤りといえる。

8 T：「片棒を担ぐ」は主に良くない企てや仕事に加わること、「鼻を明かす」は人を出し抜いてあつといわせること、「牛耳を執る」は中国の歴史的な慣習に由来する故事成語で、主導権をにぎること。U：「蛍雪の功」は苦労した勉強が実を結ぶこと、「竹馬の友」は幼なじみ、「他山の石」はつまらぬ人の過ちをも自分を向上させるのに用立てること。V：「気がおけない」は遠慮の必要もないほど親しいこと、「気が長い」はあせらずゆったりしている様子、「気がある」は関心や好意があること。

3

福岡伸一の文章による。（おおたとしまさ編『子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの？』所収）

※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 次の文に「〽期間が異常に長いということですよ」と言い換えてあった。

2 第二段落からこまでの筆者の論理の展開を丁寧に追っていき。それぞれの空らんの前後の言葉（「発生」、「促される」、「出合う」）を手がかりにする発想も大切である。

3 「やはり子どものときにしか感じられない」という表現は、直前の「子どものときに感じたみずみずしい感動」という記述を引き継いでいる。

4 「大きな問い」という表現に對比されるような、目先の損得について表現する言葉である。

5 「科学」と「技術」、「教育」と「職業訓練」、「ディベート」と「哲学」のそれぞれの対比のうち、筆者がより積極的な価値を認めているほうが「大きな問い」に関わるものである。

6 「『大きな問い』を見失います」II ⑤を支える大事なものを失うことであるから、空らんにはいるのは「大きな問い」がもたらすようなものごとに関わる言葉である。二つ手前の段落で、「もっと『大きな問い』の存在が、豊かな人生を支えてくれるのだろう」とあった。

7 最後の文に「『小さな問い』つまり目の前の勉強」とあった。

8 「不・無・非・未」は下の字の意味を打ち消し、「的・性・然・化」は上の字に微妙な意味あい添える役割を果たす。P「非常」…ふつうでないこと。Q「必然」…必ずそうなること。R「不自然」…自然でないさま。S「感性」…ものの感じ方。感受性。以上